

はじめに .....	3
------------	---

## 序章 企業事件・不祥事の傾向

---

1 近年の企業事件・不祥事 .....	12
2 企業事件・不祥事に見られる傾向 .....	15
3 本書の構成 .....	16

## 第1章 コンプライアンスリスクの全体像

---

1 はじめに .....	20
2 コーポレートガバナンス元年 .....	21
3 会社法における内部統制システム構築義務 .....	23
4 内部統制システムの概念 .....	24
(1)D銀行株主代表訴訟事件 .....	25
(2)鉄鋼K社株主代表訴訟事件 .....	26
(3)飲料Y社株主代表訴訟事件 .....	27
(4)株主代表訴訟判決から読み解く内部統制システム概念 .....	28
5 内部統制とPDCAサイクル .....	29
6 企業グループの共通基盤としての内部統制システム .....	30
7 企業価値創造とグループ管理 .....	33

## 第2章 リスクマネジメントとコンプライアンス

---

1 リスクマネジメントの全体像と定義 .....	36
(1)リスクマネジメントの全体像 .....	36

(2)狭義のリスクマネジメント .....	37
(3)クライシスマネジメント .....	38
(4)コンプライアンス .....	38
<b>2 企業におけるリスクマネジメントの基本的な取組</b> .....	39
(1)リスクの種類 .....	39
(2)リスクの特定 .....	41
(3)リスクの抽出と評価 .....	41
(4)企業グループとしてのリスクマネジメント・プロセス .....	45
(5)企業グループのマトリクス管理 .....	46
(6)リスクの処理 .....	47
(7)コンプライアンス・プログラム .....	49
(8)有価証券報告書の「事業等のリスク」の記載 .....	50

## 第3章 クライシスマネジメント

---

<b>1 企業に求められるクライシス対応体制の整備</b> .....	54
(1)法的リスク分野 .....	54
(2)自然災害分野 .....	55
<b>2 クライシスマネジメントの事前準備</b> .....	56
<b>3 企業グループとして対処すべき重要リスクの判断基準</b> .....	56
(1)連結財務諸表上の大きな損失を惹起する事象 .....	56
(2)重要な事業が一定期間中断する事象 .....	57
(3)顧客の生命身体、財産に損害が生じる事象 .....	57
(4)当社グループの役員・従業員の生命身体に関わる事象 .....	58
(5)重大な事件・事故・不祥事 .....	58
(6)大量または重要な情報漏えい .....	58
(7)社会への重要な影響、その他 .....	59

<b>4</b>	エスカレーションルール .....	60
<b>5</b>	緊急危機対策本部の設置と対応 .....	62
	(1)エスカレーションルールに基づく 報告の概要 .....	62
	(2)緊急危機対策本部の設置 .....	62
	(3)緊急危機対応とチェックリスト .....	63
<b>6</b>	クライシス・シミュレーション・トレーニング .....	64

## 第4章 機関投資家の動向から見るコンプライアンスリスク

---

<b>1</b>	企業の法務部門の発展系譜 .....	68
<b>2</b>	わが国企業におけるコンプライアンス部門の新設 .....	69
<b>3</b>	企業価値を創造するコンプライアンス部門への変貌 .....	70

## 第5章 外国法・国際規範とコンプライアンスリスク

---

<b>1</b>	外国法・国際規範を遵守する意義 .....	76
<b>2</b>	プライバシー・個人データ保護分野 .....	76
	(1)EUのデータ保護法制 .....	76
	(2)わが国の立法における国際的整合 .....	78
	(3)情報法コンプライアンスのあり方 .....	80
<b>3</b>	贈賄防止法分野 .....	81
	(1)アメリカの海外腐敗行為法 .....	81
	(2)イギリスの贈賄防止法 .....	83
	(3)贈賄防止法コンプライアンスのあり方 .....	84
<b>4</b>	ビジネスと人権に関する指導原則 .....	84
<b>5</b>	グローバル企業におけるコンプライアンス経営 .....	85

## 第6章 ケースで学ぶコンプライアンスリスク マネジメント

---

### ケースとポイント解説 1

#### 情報の持ち去り事件から考える情報法コンプライアンスのあり方

<b>ケース①</b>	情報の持ち去り事件	92
課題		92
<b>ケース解説①</b>	概要	93
<b>ケース解説②</b>	情報法の「間隙」	97

### ケースとポイント解説 2

#### 製品事故から考えるクライシス発生時の判断のあり方

<b>ケース②</b>	製品事故に関するメーカーの経営者の責任	103
課題		103
<b>ケース解説①</b>	関連する法令	104
<b>ケース解説②</b>	ガス瞬間湯沸器一酸化炭素中毒事件の概要	105
<b>ケース解説③</b>	有効な結果回避の対策	107
<b>ケース解説④</b>	製品事故の情報を知った場合の経営判断	109
<b>ケース解説⑤</b>	製品事故防止のための平時の対策	110

### ケースとポイント解説 3 不正を知った従業員 111

<b>ケース③</b>	不正を知ってしまった従業員	114
課題		114
<b>ケース解説①</b>	不正の発生要因	115
<b>ケース解説②</b>	組織風土改革の重要性	118
<b>ケース解説③</b>	ディフェンスラインの見直し	121

ケース解説④	Compliance I からCompliance II へ	122
--------	--------------------------------	-----

## チェックリストを使った組織の健康診断 123

(1)事前課題	123
(2)研修当日のディスカッション	123

## 第7章 裁判例から学ぶコンプライアンスリスク マネジメント

1	はじめに	128
2	英会話学校N社解約精算金請求事件	128
	(1)英会話学校N社の発展と苦情	128
	(2)解約精算金請求事件の争点	129
	(3)最高裁判決から破産申請に至る経緯	131
	(4)考察	131
3	食品D社 未認可添加物入り商品販売事件	133
	(1)事件の概要	133
	(2)株主代表訴訟	134
	(3)考察	134
4	コンプライアンス経営はどうあるべきか	135
	(1)「noblesse oblige」	135
	(2)コンプライアンス経営のあるべき姿	137
	(3)Compliance I からCompliance II へ	139
	図表一覧	141
	著者紹介	143